



湿地： 私たちにできること

私たちが使う水の浄化、生物多様性の保全、海岸線の保護、気候変動の影響緩和など、湿地がさまざまな恩恵をもたらしてくれることがわかりただけででしょうか？

1990年以降、世界の湿地の64%が失われ、残された湿地も荒廃しつつあることを知り、驚かされていることでしょうか。このような流れを変えるため、一人ひとりにできることにはどのようなことがあるのでしょうか？

湿地のために私たちが できる7つの行動

湿地が身近にないでしょうか？地元の自治体や、大学、NGOとコンタクトを取り、その湿地の生態学的特徴を守るにはどうしたらよいか考えてみましょう。

1 身近にある湿地に注目しましょう

自分の地域にはどのようなタイプの湿地があるか探してみましょう。よく見られるのは、塩性湿地、ヨシなどが茂る湿原、沼地、泥炭地、マングローブなどです。サンゴ礁や湖、川も湿地とみなされています。

- 自分の湿地への想いを深めるために、近くの湿地へ行ってみましょう。そこではどのような植物や動物が見られるでしょうか？その湿地はどのように利用されているのでしょうか？別の季節に行ってみて、あたりがどのように変化しているか観察してみましょう。
- 保護区で樹木の伐採などの違法行為を発見したら関係機関に報告しましょう。
- ラムサール条約湿地のリスト(www.ramsar.org/sites-countries/the-ramsar-sites)をチェックして、近くに『国際的に重要な湿地』として登録された場所があるかどうか確認してみましょう。もしあれば、kmzファイルをダウンロードして、グーグル・アースに目印をつけ、その湿地の情報を入手しましょう。
- 湿地の管理担当者と話し、何かできることがないかどうか聞いてみましょう。
- ラムサール条約に登録されるべきと考えられるのに、まだ登録されていない

2 他の人に伝えましょう

湿地はしばしば不用の地とみなされません。つまり、埋め立てたり、水を抜いたり、焼き払ったり、何か別の用途に使ったりすべき場所と考えられています。湿地が地球や地域に、とてつもない恩恵をもたらしていることを、他の人々にわかってもらう手助けがあなたにもできます。

- 会話の中で湿地に関する面白い話題を取り上げてみましょう。ラムサールファクトシートは、その情報源としても役立ちます。
- 地元の湿地がもたらす恩恵について、地域の人々がよりよく理解できるよう、学ぶ機会を設けましょう。

3 湿地の一斉清掃を行いましょう

人口が多い地域では湿地がゴミだらけになりがちです。

- みんなで1~2時間一緒に作業すると、一斉清掃が短時間で大きな効果をあげられることを実感できます。
- 清掃の前後の違いがわかるよう写真を撮りましょう。



4 自分の消費行動を変えましょう

水の節約、有害廃棄物の減量、持続可能な農業や漁業の支援などはすべて、湿地にいい影響を与えます。

- 持続可能な方法で養殖あるいは漁獲された海産物、有機農法で育てられた作物や肉を買きましょう。
- 買物に行くときはエコバッグを使いましょう。
- シャワーの時間を短くしましょう。
- 家庭のゴミをリサイクルし、乾電池などの有害なゴミが埋立地や湿地(!)に処分されることのないようにしましょう。



5 環境を意識しながら自分の庭を管理しましょう

汚れた水や繁殖力の強い植物は、湿地に深刻な被害をもたらします。自分の庭から排出される水が湿地に悪い影響を与えないようにしましょう。

- 地域にもともと生育する植物や害虫に強い植物を選んで、それぞれに合った環境で育てましょう。
- 肥料の使用は最小限にし、有害な殺虫剤、農薬の使用は控えましょう。
- 水やりはしっかり行う代わりに回数を減らし、雨水を貯めて使いましょう。



6 世界湿地の日の行事に参加しましょう

2015年2月2日(月曜日)は世界湿地の日です。世界中で意識向上のための行事が行なわれるこの日を応援しましょう。

- 地元に住む15~24歳の若者に『世界湿地の日 青年写真コンテスト』に応募するよう勧めてみましょう。応募するには、2015年2月2日~3月2日までに湿地で撮った写真をWWD(世界湿地の日)のウェブサイト(www.worldwetlandsday.org)に投稿します。
- 世界湿地の日に合わせて、湿地について学ぶイベントを開催しましょう。
- ガイドブック『Guide for teachers and organizers』に多くのアイデアが載っていますのでご覧ください。

7 他の団体に参加して、実際の活動に関わってみましょう

湿地とその持続可能な利用について活動している多くの団体やネットワークがあります。そのような活動に関わってみましょう。以下に主要な団体をいくつか紹介します。

Wetlands International 国際湿地保全連合

湿地の保全と再生に向け、世界規模で活動している唯一の非営利団体
<http://www.wetlands.org>

IUCN – International Union for the Conservation of Nature 国際自然保護連合

世界最大かつ最も歴史が古い地球規模の環境団体
ラムサール条約も含め地球全体で1200団体以上がメンバーになっており、メンバーのデータベースについては以下を参照のこと
https://www.iucn.org/about/union/members/who_members/members_database/

Birdlife International バードライフ・インターナショナル

世界120団体からなる鳥類関連団体の連合組織
国ごとのパートナーについては以下を参照のこと
<http://www.birdlife.org/worldwide/partnership/birdlife-partners>

WWF – World Wide Fund for Nature 世界自然保護基金

人々が自然と調和して生きる未来を目指す団体
6大陸100以上の国々で活動を展開している
<http://www.wwf.org>

IWMI – The International Water Management Institute 国際水管理研究所

開発途上国の水資源と陸上資源の持続可能な利用に重点を置く非営利の科学研究所
<http://www.iwmi.cgiar.org/>

WWT – Wildfowl & Wetlands Trust 野鳥 & 湿地トラスト

世界中の湿地保護に関わる英国を拠点とした慈善保護団体
<http://www.wwt.org.uk/>

WLI – Wetland Link International (WLI)

湿地リンク・インターナショナル
現場で実際の活動を行なう湿地教育センターへの支援ネットワーク
<http://wli.wwt.org.uk/>

このファクトシートは、ラムサール条約が提供しています。統計の値は『Reference Sources sheet (参照元シート・別添・英語)』に掲載されている各種出版物やウェブサイトから引用したもので、個別にダウンロードできます。データについては、可能な限り正確かつ慎重に調査されたものを提供していますが、本書の内容はいかなる保証も与えるものではありません。

ラムサール条約



一般にラムサール条約として知られる『国際的に重要な湿地に関する条約』は地球規模の政府間条約で、湿地と湿地資源の保全と賢明な利用のための国内行動と国際協力の枠組みを提供するものです。これは、世界ただ一つの湿地という単一の生態系に焦点を当てた条約です。